

高等教育の国際的動向及び将来展望

研究大学政策の動向を中心に



東北大学インスティテューショナル・リサーチ室長・教授
総長特別補佐（IR総括担当）

米澤彰純

akiyoshi.yonezawa.a4@tohoku.ac.jp

国際環境の変動と高等教育

- 地政学的な状況の変化
 - 国際政治・経済の多極化
 - ナショナリズムの台頭
- 高等教育に関わる経済・社会構造の変化
 - 科学・技術・イノベーションの国際地図の変化
 - 学生の国際移動の国際構造・バランスの変化
 - 教育・研究費負担問題



- 議論のゆらぎ
 - 高等教育とグローバル化対応・国際化
 - 大学・高等教育のあり方・意義そのもの

大学・高等教育の理念の現代的問い直し

- 高等教育への参加拡大とガバナンス・システム分化・公正
- 教育の質や学修成果に関わる議論の進展
- メディアの技術革新
- 知識経済と大学・高等教育との結びつき
- 大学ランキングの影響



国際の日常化と地域バランスの変化



- 大学・高等教育に(一元的な)グローバル・スタンダードを求める議論のゆらぎ
 - 高等教育の価値・アイデンティティを(グローバルではなく)自国・地域の大学・高等教育の発展の中に見出そうとする動き
 - 多極的なイニシアティブに基づく国家間・地域間連携
 - 新自由主義・グローバル市場競争モデルに対してのオルタナティブの提示

高参加型高等教育システム(HPS)に関する命題

(Cantwell, Marginson & Smolentseva 2018より)

一般命題

- 高参加型高等教育システム(High Participation Systems: HPS)が多くの国に広がるにつれて、世界の社会的公平性が高まる。
- HPSでは、ユニバーサルな参加が達成されるまで、家庭がもつ高等教育への参加へのアスピレーションの広がりには本質的な限界はない。家族や学生が望む社会的地位に本質的な限界はない。
- 主に農業経済からの移行が達成されると、HPSの長期的な成長は、経済成長および労働市場需要のパターン、高等教育の公的および私的資金調達のパターン、公的機関と私的機関の役割、システムの組織化とガバナンスのモードなどの政治経済的要因からは独立して起きる。

ガバナンス

- HPSは、複数段階の統制、調整、説明責任のメカニズムにより統治される。
- HPSのガバナンスは、水平的多様化を管理する傾向がある。
- HPSの複雑な多段階の説明責任と調整は、システムの多様化と相まって、高等教育機関における法人形態と強固な内部ガバナンスや管理能力の採用を促進する。

水平的多様化

- HPS時代には、政治経済や文化に関わらず、包括的で多分野・機能を有する研究大学(マルチバーシティ)が各システムにおいて中心的存在となる。マルチバーシティは、高等教育の代表的・支配的な形態となる。
- HPSにおいては、政治経済と文化に関わらず、参加が拡大すると、高等教育機関の形態とミッションの全体的多様性が必要以上に増加することはなく、オンラインによる提供を除けばおそらく減少する。
- 参加が拡大するにつれて、マルチバーシティ内部の多様化が進む傾向がある。具体的には、ミッション、事業活動、機関の形態と内部構造、分野の組み合わせ、研究活動、課程段階と学位資格の範囲、学生の多様性、利害関係者との関係、国際関係、教職員の労働の形態などの多様化が進む。

- 他の条件がすべて同等である場合、新自由主義疑似市場における参加の拡大と競争の強化の組み合わせは、多様性に関連する特定の効果と関連している。この効果とは、(1)高等教育機関の垂直分化(階層化)の促進、(2)水平分化(多様化)の減少、(3)同系繁殖的模倣によるミッションの収束、(4)私的高等教育機関(特に営利機関)の役割の拡大などである。

垂直的多様化

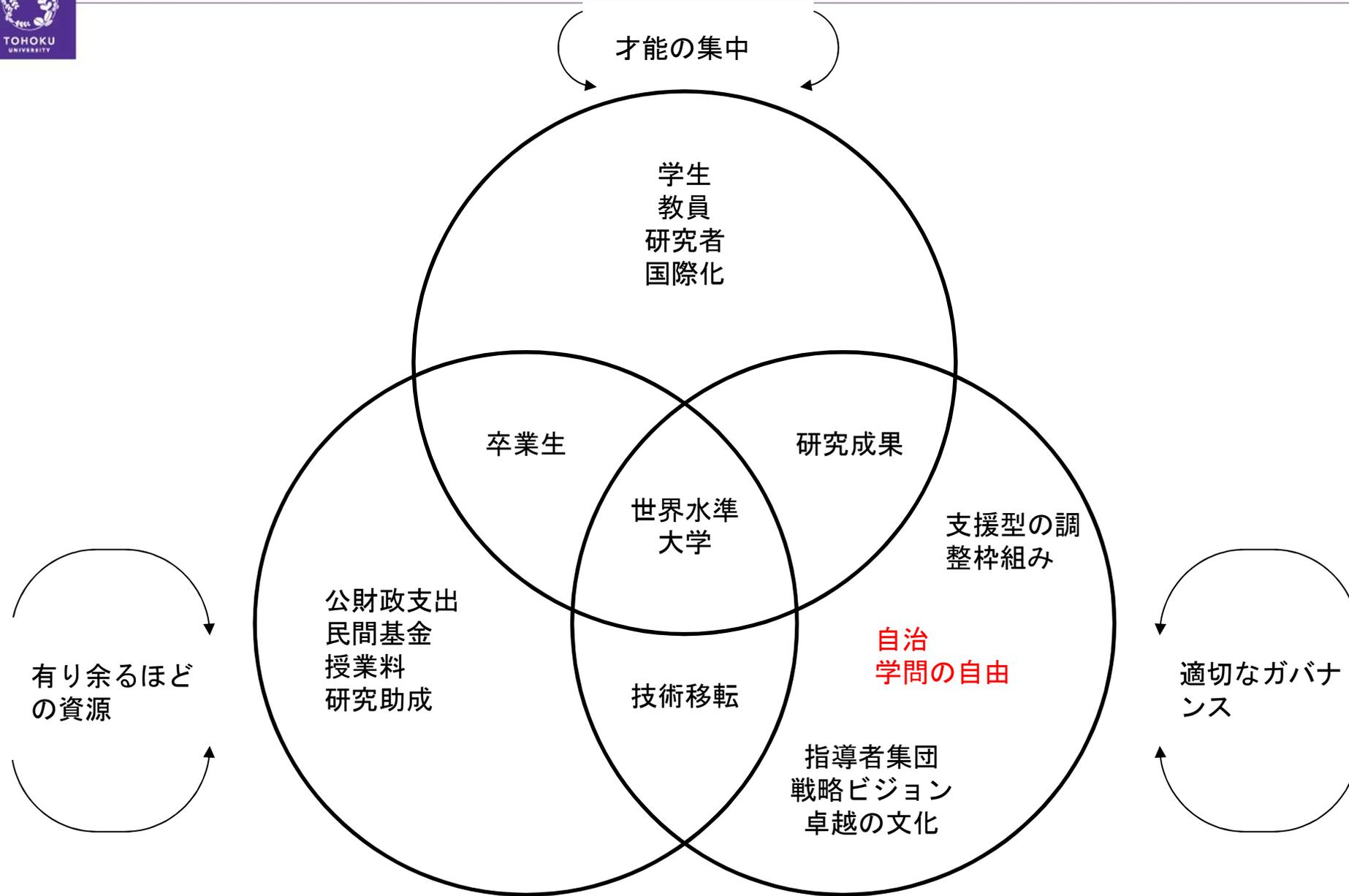
- HPS段階にあたる参加の拡大は、エリート(職人)機関とマス(需要吸収型)機関との間の分岐や階層化(垂直型多様化)傾向を伴う。
- 高等教育機関の階層化の傾向は、(a)最も価値のある高等教育機関への入学を巡る社会的競争の激化、(b)学費の変動、(c)高等教育機関間の競争の激化など、HPSの(普遍的とはいえないとしても)共通の特徴を拡大させる。
- 階層化されたHPSでは、高等教育機関の上昇志向(ドリフト)とシステムにおける資源と地位の希少性が相まって、中間層にあたる高等教育機関が形成される傾向がある。

公平性

- HPSの段階が進み参加が拡大するにつれて、社会的包摂としての公平性が高まる。
- HPSが進行する過程では、参加の拡大は階層化の強化を伴い、主要な移行点での競争の激化を伴う。また、他のすべてが同等である(すなわち、国の補償政策がない)場合、参加の拡大は、教育のアウトカムおよびその結果としての社会的アウトカムにおける社会的不平等の増大をもたらす。
- 国家システムの中では、HPSが進行して参加が拡大するにつれて、高等教育システムの階層構造はますます社会そのものに似てくる。HPSは、社会平等/不平等の既存のパターンの再現にますます関与していく。
- HPSが進み、高等教育への参加のフロンティアが移動していくにつれて、国および自律的な教育システム・機関は、教育機会の再配分を確保すること及びそれを通じて社会的機会の再配分を確保することがより困難になる。

大学ランキングの影響

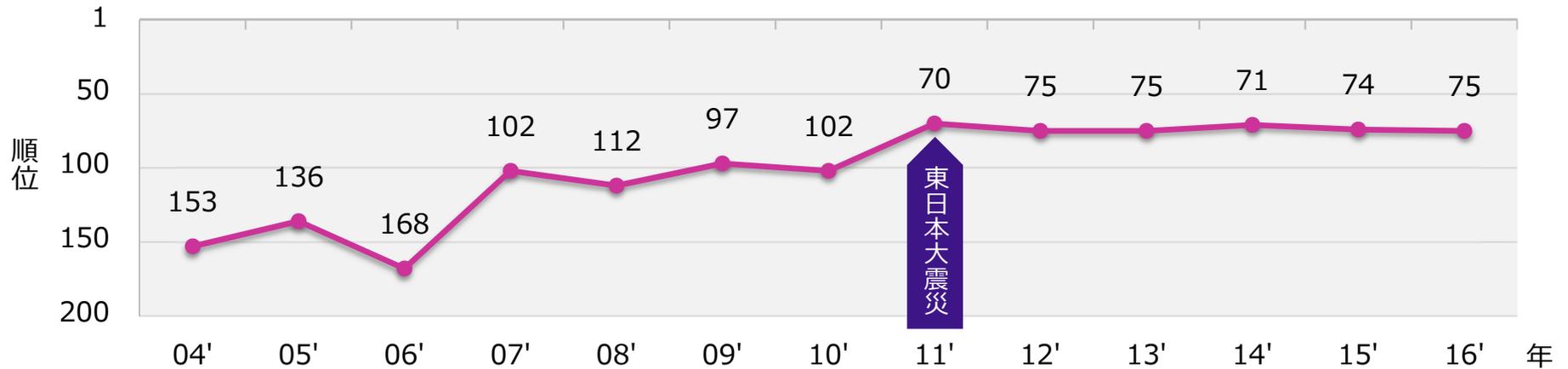
- 世界大学ランキングの本格的提供 (2004-)
 - 研究大学間に国を超えた共通の市場が出現
 - 研究者・学生の移動に影響を及ぼす
 - 新興国・先進国間での国家間競争のKPIに→介入・資源競争の激化
 - 大学の戦略・理念に影響を及ぼす
 - 研究者の教育・研究・社会貢献活動のあり方に影響を及ぼす
- ランキング主体の増加及び指標・方法論の多様化(分野別、地域別・国別など)
 - 複数のランキング間の差の顕在化→結果の相対化
 - 国の政策誘導のマイクロ・マネジメントの促進
 - ランキングからデータ提供・マーケティングサービスへのビジネスモデルの転換
 - 参加(影響を受ける)大学数の拡大
 - 情報収集・対策のためのコスト増
- 新たな大学理念・モデルの提唱
 - 世界水準大学(World Class University): 国際的に最も威信が高く有名な学術機関群(Altbach)、「望ましい」世界水準大学像、世界水準の高等教育システム像およびモデル・ケースの提示(Salmi)
 - 新フンボルト型: 国境を超えることで研究、大学が国家からの自律性を獲得(Marginson)
 - 国際リベラルアーツ: 非英語圏で英語でエリート教育(Altbach)
- 地域・国のアイデンティティに基盤を置いた大学像の模索
 - U-Multirank: 欧州の文脈を意識した多様な指標でのプロフィール表示
 - 旗艦大学: ランキングを離れて現代的な研究大学像を探求
 - 「脱植民地化」(アフリカなど)
 - 儒教型高等教育システム: 積極的な国家介入による威信上昇(東アジア: Marginson)
 - アジア・中国(語圏)独自の大学・高等教育像の模索(ハイブリッド大学 Chan 他) →日本の位置づけは?(Yonezawa)



世界水準大学の特徴と主な要件

Salmi (2009) (訳: 米澤彰純)

東北大学とQS世界大学ランキング



| 評価指標 | 2016年順位 | スコア |
|--------------------|---------|------|
| 研究者評判 (40%) | 83位 | 78.7 |
| 雇用者評判 (10%) | 174位 | 57.5 |
| 学生 / 教員比率 (20%) | 45位 | 97.9 |
| 教員一人あたりの被引用数 (20%) | 213位 | 52.3 |
| 外国人教員比率 (5%) | 501位以下 | 17.8 |
| 外国人学生比率 (5%) | 501位以下 | 13.3 |

海外の有力大学と比較して、**外国人教員比率**及び**留学生比率**が低い。研究においても、**論文被引用度**の観点から**プレゼンス**が低下傾向。⁷

指定国立大学法人としての東北大学の将来構想

世界から尊敬される三十傑大学を目指して

創造と変革を先導する大学

絶えざる卓越した教育研究による
知の創造

社会・経済の変革を先導

人材育成

国際共同大学院を
中心とした特色ある
学位プログラムの提供

大学経営革新

先進的なアカデミック
ガバナンスを基盤とした
さらなる機能強化

研究力強化

4つの世界トップレベル
研究拠点の形成

社会との連携

イノベーションを先導する
世界的産学連携研究開発
拠点の構築

課題・要請

国際的プレゼンスの抜本的向上

社会からの要請に応える大学機能強化



旗艦大学(Flagship University)の条件
Douglass (2016)
(訳: 米澤彰純)

国の
高等教育
システム

- ・高等教育システムにおける位置づけ
- ・明確なサービス領域
- ・入学者の選抜

中核ミッション
教育と研究

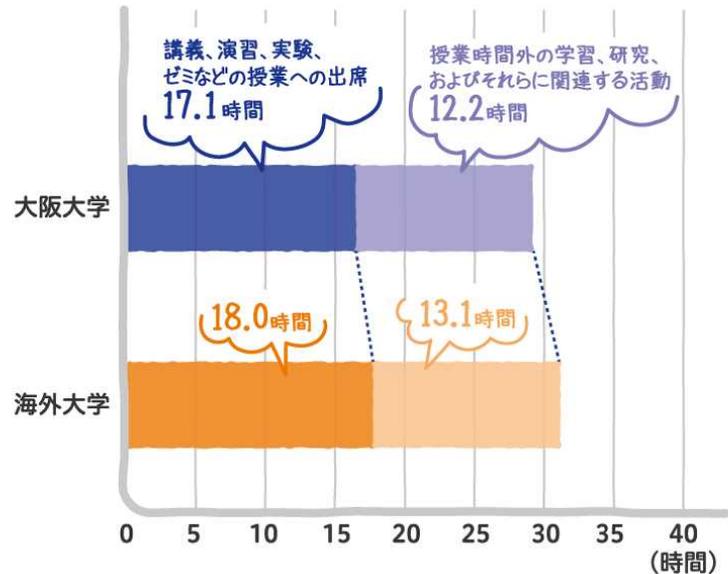
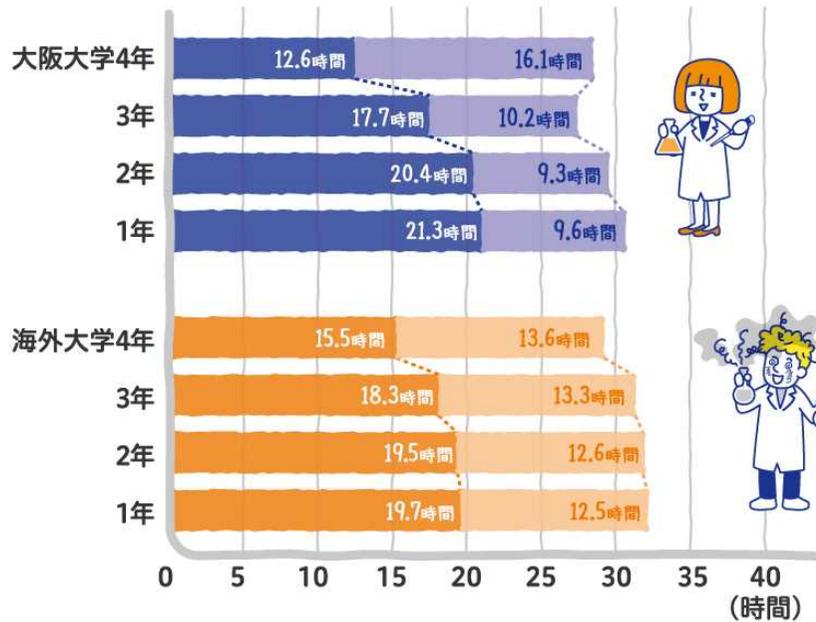
- ・学士課程教育
- ・大学院教育
- ・研究
- ・国際交流

公共サービス

- ・予約奨学金とサービス
- ・地域経済への貢献/技術移転
- ・生涯学習
- ・学校との関係

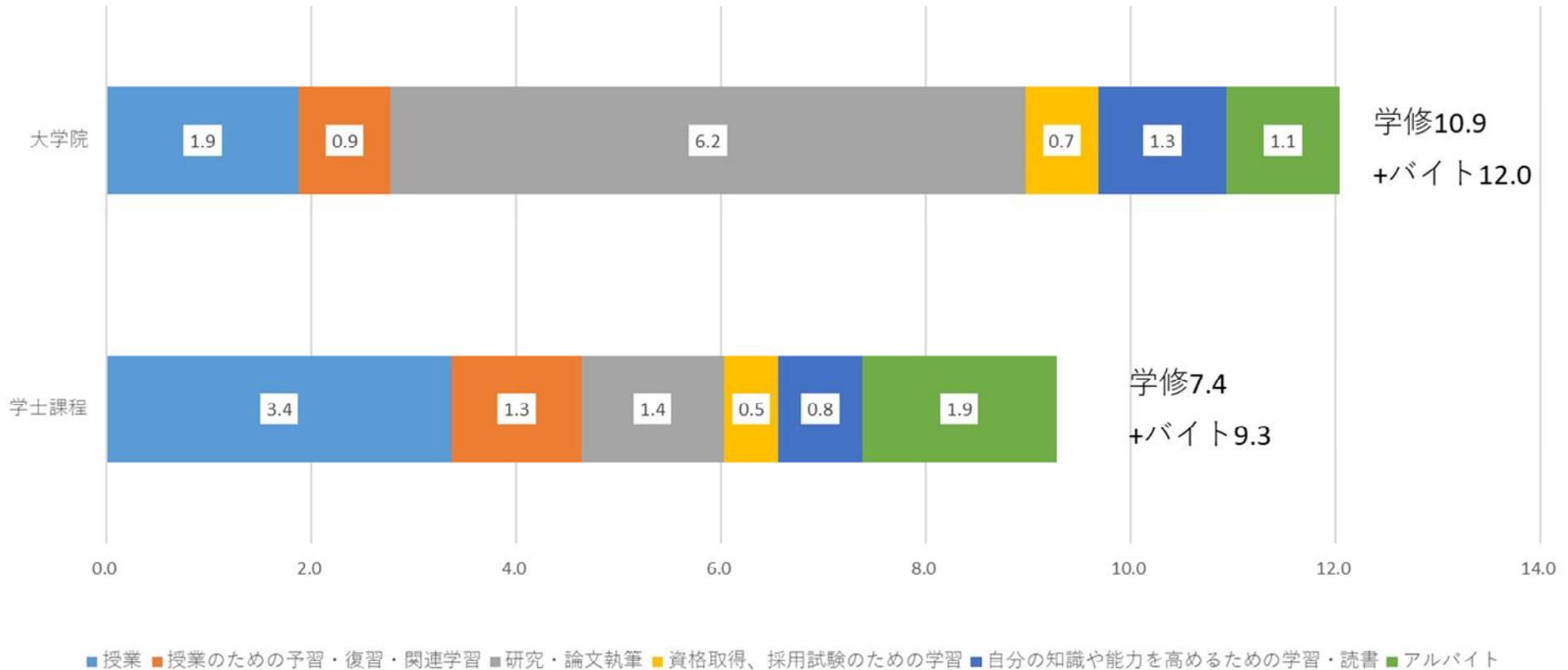
マネジメントと
説明責任

- ・大学自治・自律性
- ・ガバナンス
- ・学問の自由
- ・質・評価
- ・リーダーシップ





東北大学生の学修・仕事時間

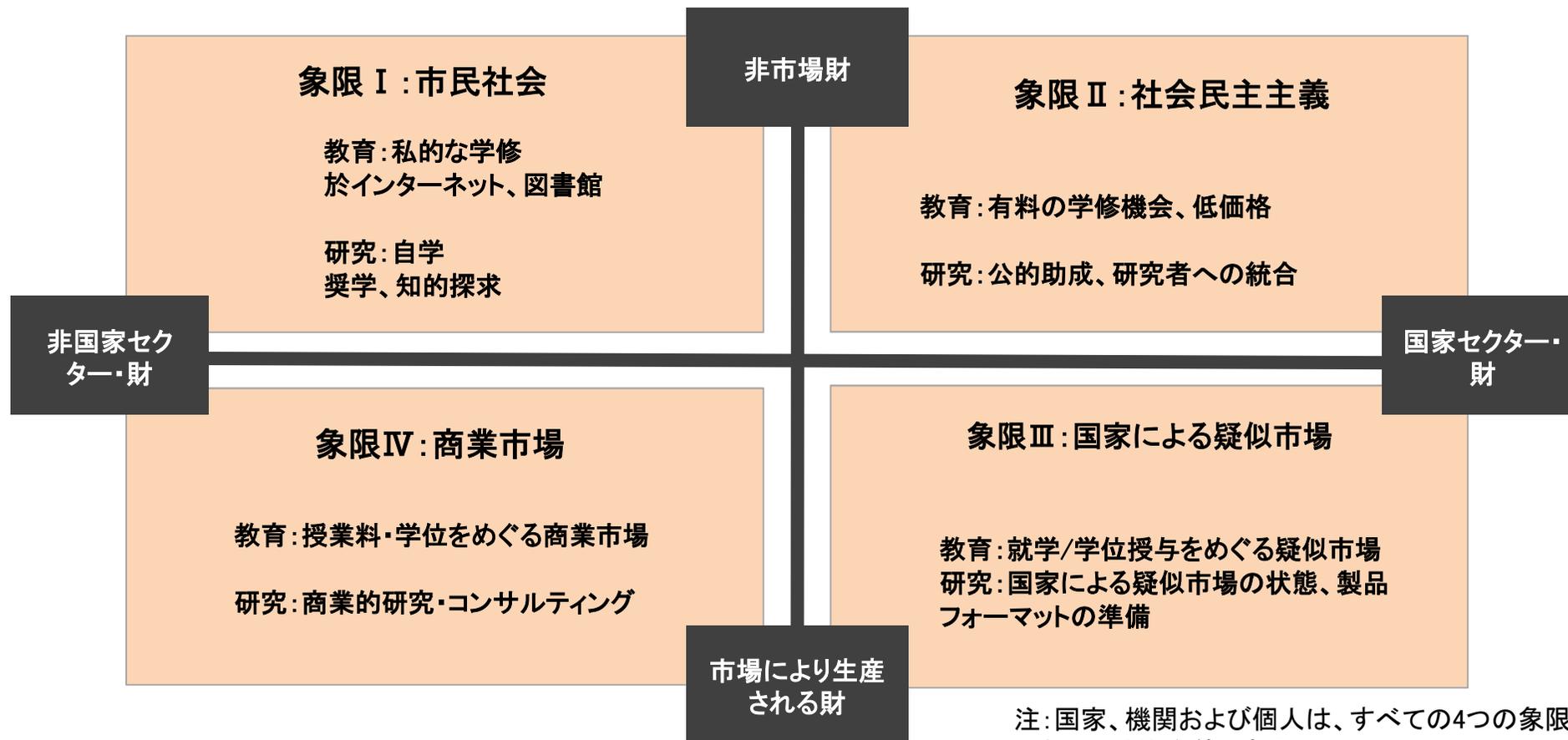


「平成29年度東北大学学生生活調査」をもとに推計

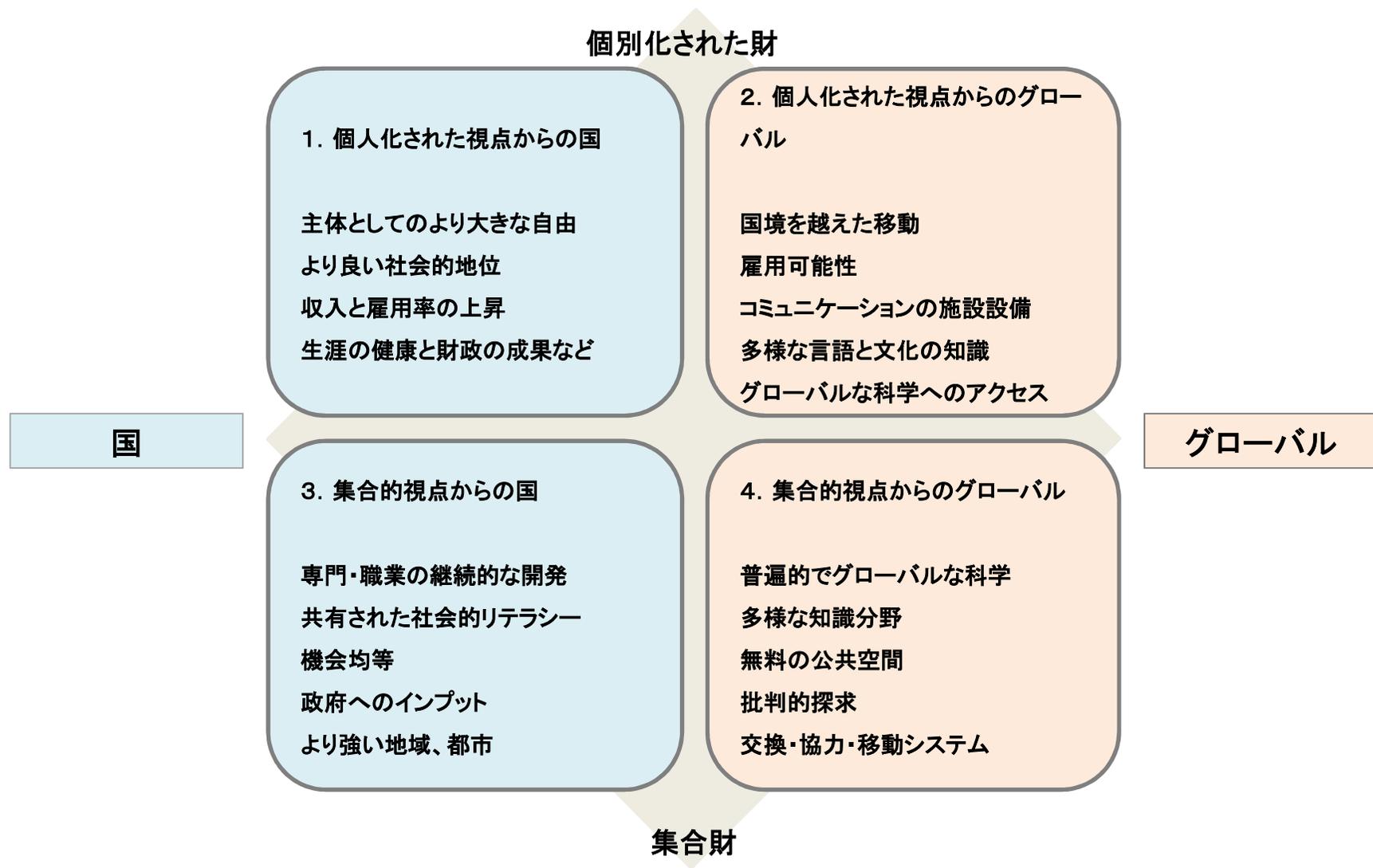
- 東北大学の大学院生の学修・アルバイト時間の合計は、1日12時間にも及ぶ
→大学院、特に博士課程の学生に対して、経済的な支援の強化が必要

公共財と私的財：4つのバリエーション

(Marginson 2018)



注：国家、機関および個人は、すべての4つの象限における活動主体である。



Marginson (2018)

国内の公正

世界水準大学群(WCUs)は自国の社会的不平等を強化し再生産する

グローバルな公正

ネットワーク化された世界水準大学群は、新興国における科学の構築と高等教育の建設を支援する

グローバルな公正

世界水準大学群は学生の出身国における社会的不平等を強化し再生産する

グローバルな公正

国境を越えた学生には完全な人権が与えられていない

グローバルな公正

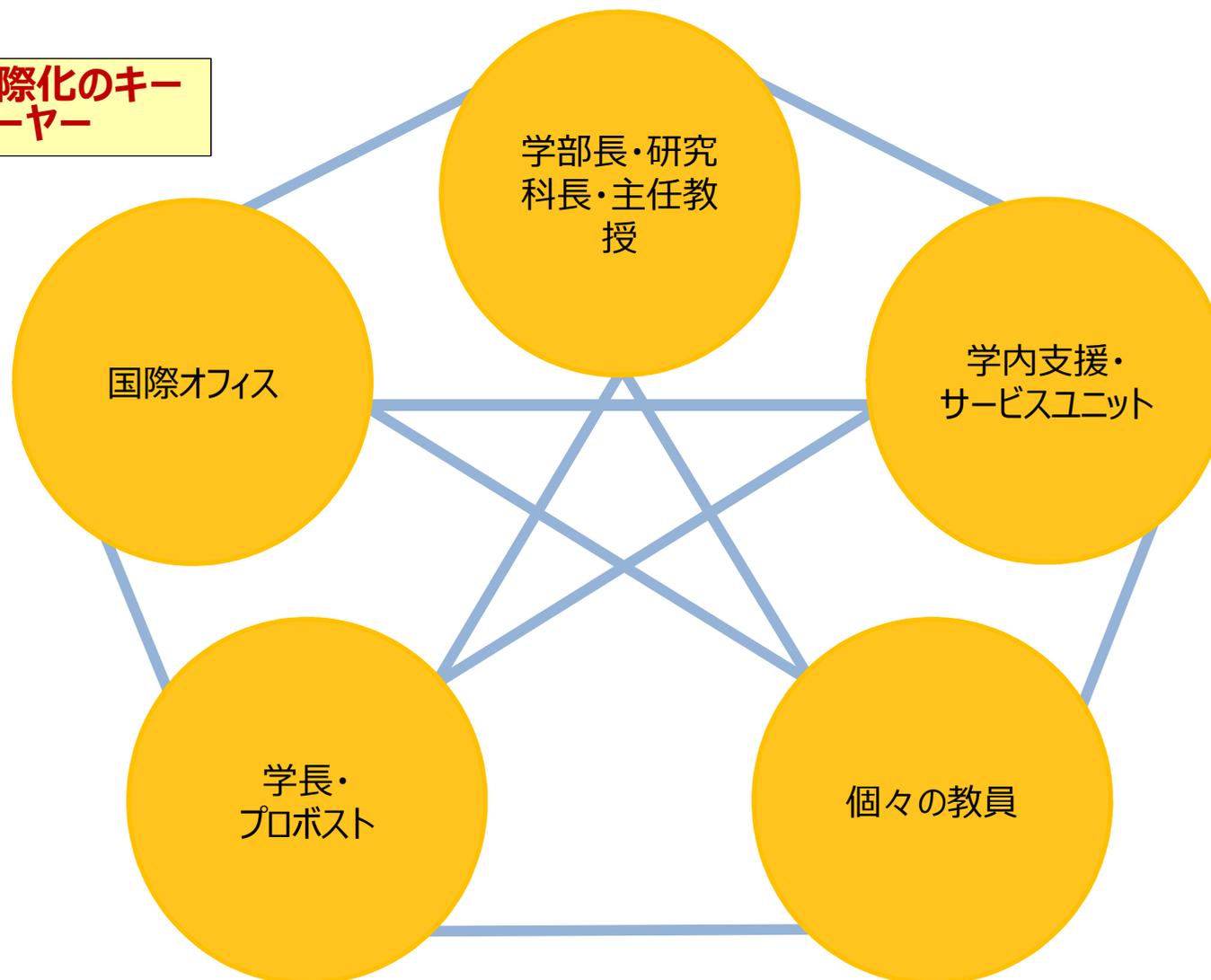
世界水準大学群は個人的・社会的・地理的移動性を提供する

Marginson (2018)

高等教育の国際化をどう捉えるか？

- **高等教育の国際化 (Internationalization of Higher Education):** 高等教育の目的、機能、その実施において国際化もしくはそのグローバルな側面を統合していく過程(Knight 2004)
- **高等教育国際化の終焉 (End of internationalization):** 高等教育の国際化が大衆へ拡大し、大学や高等教育機関の中心関心・規範と見なされ、革新性を喪い伝統が作られて行く中で価値を減少させている (Brandenburg & de Wit 2011)
- **高等教育国際化のメインストリーミング (Mainstreaming of Internationalization):** 高等教育の質及び教職員・学生の能力の向上をめざしたより包括的なプロセスベースのアプローチ(de Wit 2015)
- **包括的国際化(Comprehensive Internationalization CI):** 高等教育の教育・研究・サービスのミッションを通じて国際・比較の視点を取り入れる行動を介して国際化を確固たるものとするとの約束(コミットメント)(Hudzic 2011, 2014)。主な戦略↓
 1. 学内文化の構築: 総合的国際化についての学内対話に参加する
 2. 総合的国際化を大学・高等教育機関の中核的ミッション・価値に結合する
 3. 総合的国際化を既存のミッションとプログラムに統合する
 4. リーダーシップチームを拡張する
 5. 総合的国際化を推進するための大胆なビジョンと具体的な目標の明確化を行う
 6. 定義、測定、成功報酬
 7. 国際化のための人材獲得

包括的国際化のキー
プレイヤー



Hudzik 東洋大学スーパーグローバル創成事業セミナー講演資料より(訳: 米澤)
https://www.toyo.ac.jp/uploaded/life/337319_467022_misc.pdf

提案

日本の大学の日常の視点に立った 国際発信力のある将来構想を！

- アジアの高等教育の台頭を機会として活用：「(西洋型)グローバル化論」、「アジア主義」のいずれにも与しない、多面的・現実的な視野に立った社会課題へのコミットメント
- 日本の大学・学術の伝統のプラスの側面への再注目：人文社会科学を含めた日本の大学・高等教育における学術・実践的思考の伝統と蓄積を世界の教育・研究に発信・接続



- 「国際(発信・交流・移動・供給)」の軸を、機能分化とは独立に設定
- 大学のもつ普遍的・歴史的価値(自治・自由)への確固たるコミットメント

主要文献

- フィリップ・G・アルトバック、ホルヘ・バラン 編集、米澤彰純監訳(2013)『新興国家の世界水準大学戦略—世界水準をめざすアジア・中南米と日本』東信堂
- Cantwell, B. Marginson, S. & Smolentseva, A. (2018近刊). *High Participation Systems of Higher Education*. Oxford: Oxford University Press.
- Chan, S., Lee, M. & Yang, R. (2017). The Hybrid University in East Asia: searching for the new paradigm. *Studies in Higher Education*. 1803-1808.
- Douglass, J.A. (Ed.) (2016). *The New Flagship University: Changing the Paradigm from Global Ranking to National Relevancy*. Palgrave Macmillan.
- Hudzik, J.K. (2014). *Comprehensive Internationalization: Institutional pathways to success*. Routledge.
- Marginson, S. (2008). Clark Kerr and The Uses of the University. Melbourne: CSHE, University of Melbourne.https://melbourne-cshe.unimelb.edu.au/_data/assets/pdf_file/0008/1706417/ClarkKerr15Dec08.pdf
- Marginson, S. (2018). The new geo-politics of higher education. Working Paper 34. Centre for Global Higher Education. University College London.
<http://www.researchcghe.org/publications/the-new-geo-politics-of-higher-education/>
- De Wit, H. (2015). Internationalization misconceptions. *International Higher Education* 64.
<https://ejournals.bc.edu/ojs/index.php/ihe/article/view/8556>
- Yonezawa, A., Hoshino, A. & Shimauchi, S. (2017). Inter-and intra-regional dynamics on the idea of universities in East Asia: perspectives from Japan. *Studies in Higher Education*, 42(10), 1839-1852.
- 米澤彰純(2015)「高等教育改革としての国際化：大学・政府・市場」高等教育研究18 105-125.